

海外日誌(七)

Yerkes Observatory, Williams
Bay, Wisconsin, U. S. A. 山本一清

二月二十七日(火)

正午、新聞電報の「聯合通信社」から臺長フロスト氏に電話、鯨座β星がアルテバラン星ほどの光を増したことを、ギリシヤに居るアホットといふ人が發見し、佛國シユグイシーのフランマリオンが之れを確かめたこと、佛國のアカデミーが發表したといふのである。これは全く例のないことなので、鯨座β星の記録を調査するやら、前測をするやうで、午後の當天文臺はフロスト臺長を中心として、可なり騒いだ。生憎此の星は此頃太陽に近く、午後六時半に西の地平線に没してうさいふことをワンビー氏が計算した。危い場所だ。チラツまで観測が出来るかどうかいふ事を確かめるために、ワンビー氏とワグラー氏と自分と三人は四時頃、四十時ドームに馳け上つて、沈んで行く太陽を避けつゝ、まだ明るい西の空に鯨座β星をさがして見た……見える！確かに四十時の接眼鏡の中に見えて、またいてはゐるが、他に比較するものもないので光度のことは全く判断が出来ない。しかし此の試験は、むしろ、四十時か日没後の此の星の観測に可能だけ低く、地平に近づくか否かを見るためであつたのであるが、結局、之れは非常に怪しいといふことになつた。

日没後、パークハースト教授は六時寫眞機で此のβ星の附近を撮影したが、現像の結果、寫眞板は眞黒になつた——それほど空が明るかつた。

自分は今日夕食後、アルルスで鯨座ミラ星附近の撮影をし、夜半十二時塔へ上つて北極附近及び月を撮影。

二月二十八日(水)

終日終夜曇り。寫眞の現像と、讀書に費す。

三月一日(木)

かれて、村の小學校からの求めにより、今朝十時半、第七學年の組へ行つて、日本に關する講話をした。之れはうちのシモンヤフラ

ンク・サリワンの組で、暫く前、丁度、外國地理のアツアの部を教へつたのであるといふ。——こちらにも、少しは慣れて話はし易かつた。夕食前の未だ薄暮中、パークハースト教授と共にツアイス寫眞機で鯨座β星とミラ星とのスペクトルを撮影した。但しβ星の方は、眼では見えなけれど、空の明るいため、スペクトルは撮れない。

夕食後、アルルスの六時に黄色板を用ゐて、長時間の月を撮影した。十分時間であつたが、月の運動が美しく出てゐて、面白い結果であつた。

三月二日(金)

にはかに非常に温暖なつた。戸外で外套を脱いで見たりして喜ぶ。

夕方、又々、パーク教授と鯨座β星とミラ星とを撮影した。しかし、前者はやはり無効。

今夜は月蝕なので、夕食後、英子と二人で其の準備をした。英子は専ら十二時望遠鏡を用ゐ、色がラスをばめて、正色乾板に十三枚の撮影をする。其の間に自分は主としてアルルス寫眞機を用ゐ、種々の月蝕相を撮影した。夜半帰宅。

三月三日(土)

今日は午前も午後も英子と共に暗室に入つて昨夜の月蝕寫眞の現像をする。十二時の方は二三枚だけ線の欠けた寫り方があつた。アルルスの十時寫眞は、或る恒星に従つて器械を動かしたため、月の固有運動と地球の本影とが表はれて、豫想通り面白いものが出来た。

三月四日(日)

朝十時半から教會禮拜例の通り。

午後三時頃からワグラー氏を訪問、五時頃まで同氏の歐洲旅行談(昨午ロマ會議の時)をきく。

夕方、ツアイス・カメラでミラ星を撮影、それから引き続きアルルスでも之れを撮影した。夕食午後九時、其の後、十二時で二重星を撮影。

三月五日(月)

今朝は、昨夜の二重星寫眞を現像して見たが、豫想以上に立派なものであつた。夜は曇り、今まで撮つた種々の寫眞の焼きつけなど

す。

三月六日(火)

夕方、晴れたので、ツアイスでミラ星を撮影した。

三月七日(水)

今日も、夕食を早くすませて、ツアイス・カメラによりミラ星を撮影、(但し之れは焦點が外れてゐたことが現像後に知れた)それからブルースを北極に向け、曝露をしておいて、二十四時塔にかけ上りパークハースト教授を助けてベルセイ座R星を撮影。次でメシヤ第一號を撮影した。夜半からブルースに歸つて獅子座を撮影——忙しい夜であつた。

三月八日(木)

午前中、二重星の古い報告などをよむ。

三月九日(金)

昨年末、アルジエ天文臺で小遊星エトラが發見され、其の詳しい報告が到着したので、自分もブルースで成るだけ之れを追つかけて見ることをし、今日はエトラ星に關する古い時代からの文書を研究する。——空は曇り。

三月十日(土)

晴れ。夕食後、ブルースをオリオンのセ星附近にむけ、三枚の寫眞を撮つた。之れでエトラを捕へ得た。エトラの後にバトロクルー星を撮影し始めたが、曇りで中止。

三月十一日(日)

午前中、在宅して讀書。午後にはフロスト氏を訪問、同氏宅に新たに据え付けられたレデオ(無線電話)でシカゴの或る教會の説教を聞く。

夕食後、英子と共に天文臺に讀書してゐたが、急に低氣壓が襲來して、風は強く、雪も非常に激しくなつた。十時頃、宅に歸つた時は、既に地上七寸ぐらゐ積つてゐた。全くの吹雪で眼も開けない程大困難した。

三月十二日(月)

今朝の最低氣壓二七・九インチ(七一〇ミリ)。戸外は大風大雪。

さても外出は出来ない。終日蟄居。——一旦は大變に温かになつて喜んでゐたのに、ひどい天氣になつたものだ。

三月十三日(火)

午後から晴れ模様なので、夕方、天文臺へ行き、始め、パンビー教授と共に四十時でパーテ慧星の觀測。それから自分はブルース室へ行つて見たが、屋根が氷つて動かない。止むを得ず中止。

三月十四日(水)

朝から美しい晴れ。

今日はミス・パンビーが歐洲への旅行に出發せられるので、宅で其の準備などがあつたが、當の御本人は午前中やはり天文臺に出動して平常の通りの事務をさつてゐられた。日本の人ならば二三週間も前から送別會だなどと云つて騒ぎ、いよいよ出發の今日などは訪問客や何やかやで大多忙の時なのに。——ミスは午後四時出發、パンビー教授のみ村の停車場まで見送られた。

三月十五日(木)

雪で雪で戸外は大荒れ。夕方、深靴をはいて漸く天文臺まで出たが、歸りの時刻には益々荒れて來たので、さう／＼ストルフェ君の室の輕便寢臺の上に眠る。——こんなことは天文臺でのレコード破りだ。

三月十六日(金)

英子はリー夫人及びミス・カルグートと三人でソーキング・クラブ(御裁縫の會)といふものをこしらへた。今夜は其の第一回で午後七時からリー方に来まる。但し、リー夫人の發起によるもので、英子の英語練習とカルグートの慰安(パーナード教授死去に依る)を副目的としたものらしいが、ありふれた世間話も盛んらしい。其の會合の間、リー君と僕とは天文臺へ追放!!

三月十七日(土)

雪の景色の記念として、今朝は天文臺の寫眞を撮る。午後は久しぶりシカゴ行き。四時五分の汽車に乗つたが、寒くもあり、シカゴに雪があるつもりで、例の不恰好の深靴をはいてシカゴ北西停車場に着いた。それからマデソン街の一支那料理店へ入

つて夕食を食べたが、表戸の小さい割合に、中は非常な立派な、眼のさめるやうな料理店であつた。美しい男女が音楽に合せてダンスなどやつてゐる、この中へ、農夫の着るやうな羊毛外套と深靴を着たまゝ、吾々が入つて往つたものだから、御客もボーイも皆大驚き。しかし、さかかくツラツラしくやつつた。午後九時、第三十六街の青年會着。夜は島津氏宅にさまる。

三月十八日(日)

今日ロックフェラー財團の招待により日本から三浦、宮入、藤浪、長興、秦、高木の六醫學博士が當地へ着かれ、朝九時、島津氏と共に北西停車場に行つて見たけれど、アイオワ州あたり大吹雪のため、汽車は四時間以上の延着だといふので一旦歸る。午後一時半、再び停車場に行つて、果して一行を迎えた。それから荷物などは一旦ラサル停車場にあづけて、後、ミシガン通りの美術館へ案内した。午後五時半、一行はニウヨウクへ向け出發せられた。

三月十九日(火)

今日も非常な寒さである。午前中、島津氏方に居た。午後、又、美術館に行つて、念入りに陳列品を見、それから下町で買ひ物など、シカゴ座で喜劇「ジャズマニア」を見、夜十時頃に島津氏方に歸つて來た。

三月二十日(水)

午前十時、マクソン・パークの塚本夫人を訪問、それからシカゴ大學の構内を散歩し、學生用天文臺の寫眞を撮つたりした。晝には學生食堂で食事した。午後三時四十五分發の北西線で夕方へ歸る。

三月二十一日(木)

午前八時四十五分、春分節。曆面では此の瞬間から春になつたわけであるが、外は新しい雪が降り積んで、寒さも強い。桐生より來信、英子の祖父が去る三月二日死んだことを知らせて來た。昨年八月の初めに暇乞ひに行つたのが、あれが永久の別れとなつたのだ。

三月二十二日(木)

永く曇り續ける。終日讀書。

三月二十三日(金)

久しぶりて暗れ。太陽寫眞を撮る。但し黒點無し。夜、パークハリスト教授と共に二十四時でベルセイ座R星を撮影。其の後アルルで北極星を撮影す。英子は、夜、村學校へ學藝會を見に行く。うちのミシリン、シモン二人の成績も大によかつた由。

三月二十四日(土)

午前中、天文臺で讀書、午後ひるね。

三月二十五日(日)

午前午後とも宅にゐて、手紙をかいたり讀書したりする。

三月二十六日(月)

午後、英子が單獨でレーキ・セネツ町へ買ひ物に行つた。一これが始めてのレコードで大評判!

三月二十七日(火)

夜半、月の没した後、アルルスで小遊星を撮影す。

三月二十八日(水)

夕方、十二時で月や二重星の撮影をしたが、古い乾板を用ひた、め、成績はむしろ失敗であつた。

三月二十九日(木)

終日、天文臺で讀書。

三月三十日(金)

獨逸の天文協會(A.G.)發行の變光星文書により、統計などして見る。午後、英子は村の婦人會に行く、夜は又、御裁縫の會でリー夫人の宅へ行く。

三月三十一日(土)

パークハリスト教授、突然、東洋拓殖會社々債募集勸誘書を持つて來られたので、いろいろ説明した。村の村長の改選期が近づいたので、天文臺でも其の評判で此頃は持ち切りだ。今日午後、揭示板に「午後二時より村の郵便局の角で政談演説會ある由」といふ揭示が出たので、面白いことと思ひ、晝飯後、英子と共に途中まで雪をふんで出かけて見たが、會々パーク教授に出會ひ、「そんなものはありません」と言はれて、歸宅。いやうだんであつたのだ。英子は今日、又、レーキ・シエネツ行き。もう第二回で慣れたものだ!